



【日本プロテオーム学会通信 No. 84】

2011. 10. 27

【日本プロテオーム学会通信】は、日本プロテオーム学会会員の皆様に配信しています。

第 5 回 Central and Eastern European Proteomics conference の報告

国立がん研究センター研究所 近藤 格

2011年9月19-22日 チェコの首都プラハで第5回 Central and Eastern European Proteomics conference (CEEPC) が開催されました (<http://2011.czproteo.cz/>)。参加者は約 100 名、日本からの参加者は 1 名でした。

プラハはヨーロッパらしい中世の街並みを残す美しい都市です。モルダウ川の畔に佇むプラハ城、ピルスナービール、個性豊かなワインなどが有名です。観光地としても映画の舞台としてもおなじみですが、いろいろな学会が開催される街としても知られています。

第 5 回 CEEPC のプログラムは招待講演を中心に構成されていました。主催者の 1 人である Kovarova 教授によると、大型の学術集会とは異なる趣向をもたせるようにプログラムを構成した、とのことでした。

Taussig 博士には、抗体などのプローブを用いたプロテオーム解析の優れた総論を聴かせていただきました。自分の研究成果を喧伝するのではなく、この分野の現在および将来について緻密に俯瞰するよい講演でした。Wollscheid 博士は糖鎖修飾に焦点を当てた膜タンパク質の網羅的解析の手法 (Cell Surface Capturing technology) を独自に開発されており、その成果を紹介されました。チェルノブイリの原発事故で被爆した植物 (Hajduch 博士) や精神疾患モデルマウス (Turck 博士) のプロテオーム解析は、これからの日本では重要な研究テーマかもしれません。Havlicek 博士は MS イメージングの可能性と実際の限界を明快に概説していただきました。新しい技術について現実的な限界に基づいて議論を展開する方は貴重な存在です。本会は植物のプロテオミクスに半日を割いているところも特色でした。いわゆる臨床プロテオミクスについては本格的なものはありませんでしたが、プログラム構成に選択と集中を取り入れた結果なのでしょう。全体のサブタイトルをつけることができるようなプログラムになっていませんでしたが、中欧・東欧の研究者を中心とし

た講演会として興味深いものでした。

情報のエッセンスを得るだけであれば論文を読めば十分です。しかし、たいていの雑誌には字数制限があるため、論文を読むだけではその実験に至った過程や、研究者の思考のプロセスを理解しがたいことがあります。記憶に残るようなよい論文については著者の講演を聴きたいものです。今回もそのような講演をいくつか楽しむことができました。

3日間の学会中、コーヒブレーク、昼食、ディナーを少ない参加者・講演者が共に過ごしましたので、みなすっかり顔見知りになりました。日本からの参加者が1人という環境では英語が苦手でもコミュニケーションをとらざるをえません。著名な研究者と個人レベルで話ができるというのは、大きな学会ではなかなか望めないことです。親密な関係をもとに共同研究に発展することもあります。若手研究者の方にとっては、異文化コミュニケーションや自己アピールのまたとないトレーニングの機会でしょう。帰国してからの英語学習にも力が入ります。大学院生やポスドクの方々には、少人数で質の高い学会での発表に挑戦していただきたいものです。

第6回 Central and Eastern European Proteomics conference は2012年10月14-17日、ハンガリーの首都ブタペストで開催されます。ブタペストはドナウ川の畔に古城を有する街で、ドナウの真珠とも言われています。貴腐ワイン、街のあちこちにある温泉、世界遺産に指定される地下鉄、鎖橋などがブタペストの見どころでしょうか。何百年も前からある温泉に早朝からつかり、湯けむりにかすむ高い天井やタイル張りの壁画をゆっくり眺めたあとで会場まで歩いていくのはなかなかおつなものです。来年の大会長である Karoly Vekey 教授からの伝言ですが、日本からの参加をお待ちしているとのこと。若手研究者が参加しやすくするために参加費・宿泊費をずいぶん低く設定されています。詳細が発表されたらアナウンスいたしますので、皆様ぜひ奮ってご参加しましょう。

【日本プロテオーム学会通信】に対するご意見をメールにてお寄せ下さい。ご意見を【日本プロテオーム学会通信】に掲載希望の場合はその旨お知らせ下さい。

【アドレス変更/配信中止】【ご質問・お問合せ】は、日本プロテオーム学会事務局 (cl.jhupo@secretariat.ne.jp) にお問い合わせいたします。